

学校 教育 目標	『挑戦 夢 ふれあい まちにひかる上小キッズ』			
	【知】自分のよさや可能性に気づき、自らの意思で行動できる子を育てます。(夢・挑戦)			
	【徳】感動する心を大切に、自分の将来に夢をもち、より豊かに生きようとする子を育てます。(夢)			
	【体】自分や人の生命を大切に、健康でたくましい体をつくろうとする子を育てます。(挑戦)			
	【公】地域社会の中で自分と人のかかわりを見つめ、共に生きようとする子を育てます。(ふれあい)			
【開】国際人として、多様性を理解し、行動できる子を育てます。(ふれあい・挑戦)				
学校 概要	創立 55 周年	学校長 横山 美明	副校長 中村 久	2 学期制 一般学級：12 個別支援学級：4
	児童生徒数： 425 人 主な関係校： 上飯田中学校 飯田北いちょう小学校 (中和田中学校)			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	上飯田中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<ul style="list-style-type: none"> ・自他ともに多様性を認め、発信する力 ・地域に生きようとする力 ・思いや考えを伝え合う力 	上飯田中学校 上飯田小学校 飯田北いちょう 小学校	基礎・基本を大切に、地域とともに多様性を認める子 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック内授業交流会開催による小中一貫カリキュラムの推進をする。 ・児童生徒交流会を通じた多文化の理解と発信をする。 ・泉ブロック人権教育推進地域校での講演会による地域理解と外国籍等児童生徒の理解を図る。

中期 取組 目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆基礎・基本の定着や個に応じた指導を充実させ、できる喜び、わかる楽しさを味わい、学力の向上を図ります。 ◆子ども一人ひとりが自分らしく生き生きと生活できる学級・学校となるよう、居場所づくり・仲間づくりを進めます。 ◆地域の人に学び、働くことへの見方を深める出会いや体験を推進し、子どもの夢を育てを支援します。 ◆心と体の健康づくりに関心をもち、望ましい生活習慣を身につける取組を進めます。 ◆気持ちのそろった教職員集団による学校運営組織を確立します。
----------------	---

重点取組分野	具体的取組				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">知</td> <td>確かな学力</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務部・重点研推進委員会</td> </tr> </table>	知	確かな学力	担当	教務部・重点研推進委員会	①「自分の考えを表現し、自信をもって集団の中で活動する子の育成～対話による集団づくりをめざして～」をテーマに特別活動を中心とした授業研究を伴う研究を行い、授業力の向上を図る。 ②1人1台のタブレット端末の活用を通して、児童の基礎・基本の定着を図るための方法を探る。
知	確かな学力				
担当	教務部・重点研推進委員会				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">徳</td> <td>豊かな心</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>道徳部・重点研推進委員会</td> </tr> </table>	徳	豊かな心	担当	道徳部・重点研推進委員会	①年間を通して多文化共生を含めた児童の人権感覚を養うとともに、人権週間の取組を充実させる。 ②その時の状況に照らし合わせ、可能な形で、各学年の音楽集会としての上飯田ハーモニーを計画し、音楽を愛する心や豊かな心の育成を図る。
徳	豊かな心				
担当	道徳部・重点研推進委員会				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">体</td> <td>健やかな体</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>体育・特活部</td> </tr> </table>	体	健やかな体	担当	体育・特活部	①できる状況の中で、運動会、短なわとび大会などの活動を実施し、体力向上の取組を進める。 ②昨年度の経験をもとに学年ごとに昼休みの校庭開放の時間を増やし、中休みの遊びを充実させて、児童の目標に合わせた体力づくりを行う。
体	健やかな体				
担当	体育・特活部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">公 開</td> <td>人権・福祉・国際 教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>人権・福祉・国際教育部</td> </tr> </table>	公 開	人権・福祉・国際 教育	担当	人権・福祉・国際教育部	①児童一人ひとりの人権の尊重のために、配慮の必要な児童の共通理解を図るとともに、チームでの支援を進める。 ②助け合い、協力し合う学級集団づくりを推進するために、横浜プログラムを実践する。 ③一人ひとりのニーズに応じた教育として、国際教室、特別支援教室、少人数・T.T指導、放課後教室等の実施・充実を図る。
公 開	人権・福祉・国際 教育				
担当	人権・福祉・国際教育部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">いじめへの 対応</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童指導特別支援委員会</td> </tr> </table>	いじめへの 対応		担当	児童指導特別支援委員会	①いじめを未然防止するため、横浜プログラムの研修をとり入れ、自尊感情を育む教育活動を推進する。 ②いじめの早期発見ができるようにするため、普段からいじめを許さない・見過ごさない雰囲気作りを徹底すると共に、組織的に対応に当たる。
いじめへの 対応					
担当	児童指導特別支援委員会				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">人材育成・ 組織運営(働き方)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務部</td> </tr> </table>	人材育成・ 組織運営(働き方)		担当	教務部	①主幹教諭を中心とした部会運営をし、しっかりと情報共有を図り、風通しの良い職場環境作りに努める。 ②慣例や慣習に捉われることなく、会議や組織の在り方を見直し、働き方改革に努める。 ③メンターチームを活性化させ、授業研究や実践提案を通して学習指導や生活指導の実践力を高める。
人材育成・ 組織運営(働き方)					
担当	教務部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">児童生徒指導</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童指導特別支援委員会</td> </tr> </table>	児童生徒指導		担当	児童指導特別支援委員会	①職員会議等で児童指導に関する情報を教職員全体で共有し合い、支援・指導の徹底を図る。 ②児童相談所や区役所等の関係諸機関と連絡を密にし、個を取り巻く環境の連携を深める。
児童生徒指導					
担当	児童指導特別支援委員会				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">キャリア教育</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務部・重点研推進委員会</td> </tr> </table>	キャリア教育		担当	教務部・重点研推進委員会	①状況を見ながらできる範囲の中で、外部講師等、専門家を講師として招請し、本物に触れる学習活動を積極的に取り入れる。 ②限られた条件の中にあっても、できるだけ体験活動を重視し、遠足や宿泊等に系統性を考えて積極的に取り入れる。
キャリア教育					
担当	教務部・重点研推進委員会				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">地域連携</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>渉外</td> </tr> </table>	地域連携		担当	渉外	①状況を見ながらできる範囲の中で、地域コーディネーターを活用して教育支援のサポーターを募り、地域人材の積極的な活用を図る。 ②学援隊、防犯パトロールと協力して児童の安全管理に努める。
地域連携					
担当	渉外				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">国際・大学連携</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>渉外</td> </tr> </table>	国際・大学連携		担当	渉外	①自分や親がつながる国の母語・母文化を学ぶことを通して、親子間の言語コミュニケーションを図るとともに、自尊感情を高め、アイデンティティの高揚を図る。 ②母語・母文化の学びの推進に当たっては、関係諸機関や大学と連携すると共に、学生ボランティア等の活用も行う。
国際・大学連携					
担当	渉外				